

## ベルマーク新聞 12月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)  
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

## 宮西達也さんは大阪が一番大好き!?

大阪・太子町立山田小でオーサー・ビジット



①オリジナリティあふれる作品を抱えて記念撮影 ②子どもたちは宮西さんの手先の器用さに驚いた ③「さあ、ワークショップを始めよう」

大阪府太子町の町立山田小学校（加納啓司校長、児童 182 人）で、ベルマーク財団の教育応援隊事業のひとつ「オーサー・ビジット」が 10 月 25 日に開かれました。本の著者（オーサー）が学校を直接訪ねて（ビジット）特別な授業をするという取り組みで、朝日新聞社との共同の企画です。

オーサーは、絵本作家の宮西達也さん。宮西さんはこれまで絵本で数々の受賞をし、作品は小学校の教科書にも採用されています。また、2020 年からはベルマーク財団の理事も務めています。

午前 10 時、宮西さんが体育館で授業の準備を済ませると、楽しみにした児童たちが次々集まってきました。宮西さんが大きな声で「こんにちは！」と挨拶。

「おじさんは、これまで北海道から沖縄まで日本中で講演しました」と話すと、「えーっ！日本中」と児童から驚きの声。続けて宮西さんは「その中で、大阪が一番大好きです！」と話すとさらに大きな歓声が沸きました。「でも、この前の秋田でも同じことを言いましたよ」と宮西さん。児童たちはすっかり楽しい宮西ワールドに包み込まれました。

まず、同小の児童全員が参加して、宮西さん本人の作品『ふしぎなキャンディーやさん』の読み聞かせが始まりました。児童からは「この前、読んだっ！」という声も。作品の中に登場する「ぶた」「おかみ」「たぬき」の役には、3 人の先生が飛び入りで参加。30 分ほどの楽しい時間があっという間に過ぎました。

最後に児童から「ありがとうございました」という感謝の言葉が送られました。

その次は、ワークショップです。1、2 年生合わせて 51 人が体育館に残って参加しました。ワークショップは、宮西さんの「さあ、みんな自分で考えた『怪獣』を作ってみよう！宇宙人でもいいよ。でも、何かのマネだけはしないでね」というかけ声から始まりました。小さなダンボールに、それぞれ自分で考えた怪獣などを描き、オレンジ色と黒のマジックで色付け。さらに切り抜いて、土台のダンボールに貼り付けました。自分たちだけのオリジナル作品です。そしてサプライズとして、前夜遅くに宮西さん自身が手書きで作った、全員の「ネームプレート」を作品に貼り付けて完成です。

宮西さんは、児童たちが途中で行き詰まりそうになると「がんばれ！」「いいよ！上手にできたね」「ざん新だっ！」と声をかけて励まします。「みんなに自分の作品に自信を持ってもらいたい」と宮西さん。一人ひとりの作品を「かっこいいなあ！」などと紹介しました。最後には、全員で完成した作品を抱えて記念撮影をしました。

かっこいい作品が出来上がりました!!



## 中学生でもできる社会貢献とは

東京・中野区立中野中2年が財団を訪問

東京都中野区の区立中野中学校の 2 年生 5 人が 11 月 22 日、財団を訪ねました。同校の 2 年生は毎年、総合的な学習の時間に「社会貢献活動の調査」として、企業や団体を訪問し、事業内容の聞き取りをしています。今年も A 組 5 班の 5 人が財団を訪問先に選んでくれました。

参加団体から届いたベルマークを確認する「検収」の様子や、財団職員が「倉庫」と呼んでいるスペースを見してもらいました。

質疑応答ではベルマークのことだけでなく、社会貢献活動そのものについて「中学生でも参加したり実践した

りできる活動はありますか」という質問もありました。これには「まさにそれがベルマーク。身近な商品に付いているマークを切って集めるこの運動は、中学生でも実践しやすい活動です」とお答えしました。

見学の締めくくりとして、感想を聞いてみました。「これまではおばあちゃんが持たせてくれるだけだったけれど、これからは自分でも集めてみたい」「自分の学校のためだけでなく、困っている子どもたちにも役立つ気持なボランティアだと知った」。ベルマーク運動が身近なボランティアだと分かってもらえたようです。



職員の話をもとにノートやタブレットにまとめる生徒たち